

神戸市におけるCOVID19流行に伴う 感染症定点把握気道疾患の 発生動向の変化

たかのこどもクリニック

高野智子

たかの発達リハビリクリニック 高野真



第127回日本小児科学会

COI開示

発表者：高野智子、高野真

日本小児科学会の定める

利益相反に関する開示事項はありません



はじめに

- COVID19流行により小児の感染症は激減した.
- 2023年5月8日、COVID19が5類感染症となり、複数の感染症が流行する状況になった.
- COVID19流行により神戸市における感染症発生動向がどのように変化したかを解析した.



方法

- 神戸市感染症統合情報システムの定点把握疾患集計のデータを使用した。
- 2011年～2024年14週までの、COVID19、インフルエンザ、RSウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、溶連菌感染症の定点当たり報告数(週報)のデータを解析した。
データの利用にあたっては神戸市保健所の許可を得た。
- 2類感染症時のCOVID19の発生数は兵庫県の報告数を利用した。



定点報告疾病（週報告分）

統計情報・発生状況マップ

集計表で見る

グラフで見る

マップで見る



病原体検出状況 統計情報

集計表・グラフで見る



定点報告疾病（月報告分）

統計情報

集計表で見る

グラフで見る



全数報告疾病 統計情報

集計表で見る

グラフで見る



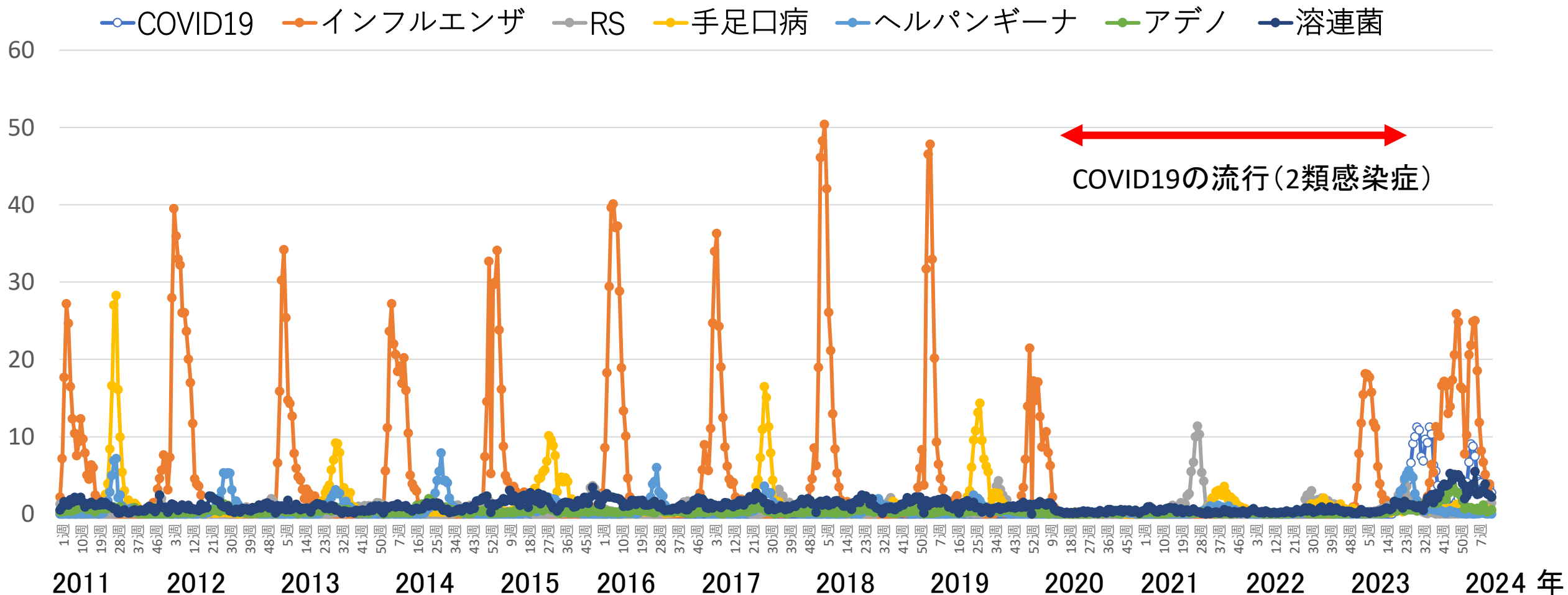
週報2024年第14週

[過去のお知らせを見る](#)

定点医療機関からの新型コロナウイルス感染症患者報告数は先週167人(3.48/定点)から今週131人(2.73/定点) 対先週比0.78倍、インフルエンザは先週185人(3.85/定点)から今週102人(2.13/定点) 対先週比0.55倍、定点医療機関からの迅速検査結果情報によるとインフルエンザB型53例でA型18例の2.94倍です。一方で今週、百日咳の届出が1例あり、今年の累計が7例となりました。百日咳は2018年から全数把握対象となった疾患で、長引く咳や顔を真っ赤にして激しく咳込み最後にヒューと音を立てて息を吸う咳発作が特徴ですが、ワクチン既接種の小児や成人では典型的な症状が見られない場合も多くあります。乳児では肺炎や脳炎、脳症を合併し重症となる場合があり、ワクチン未接種の新生児・乳児への感染に注意が必要です。DPTワクチンの接種や基本的感染対策の徹底などで予防しましょう。

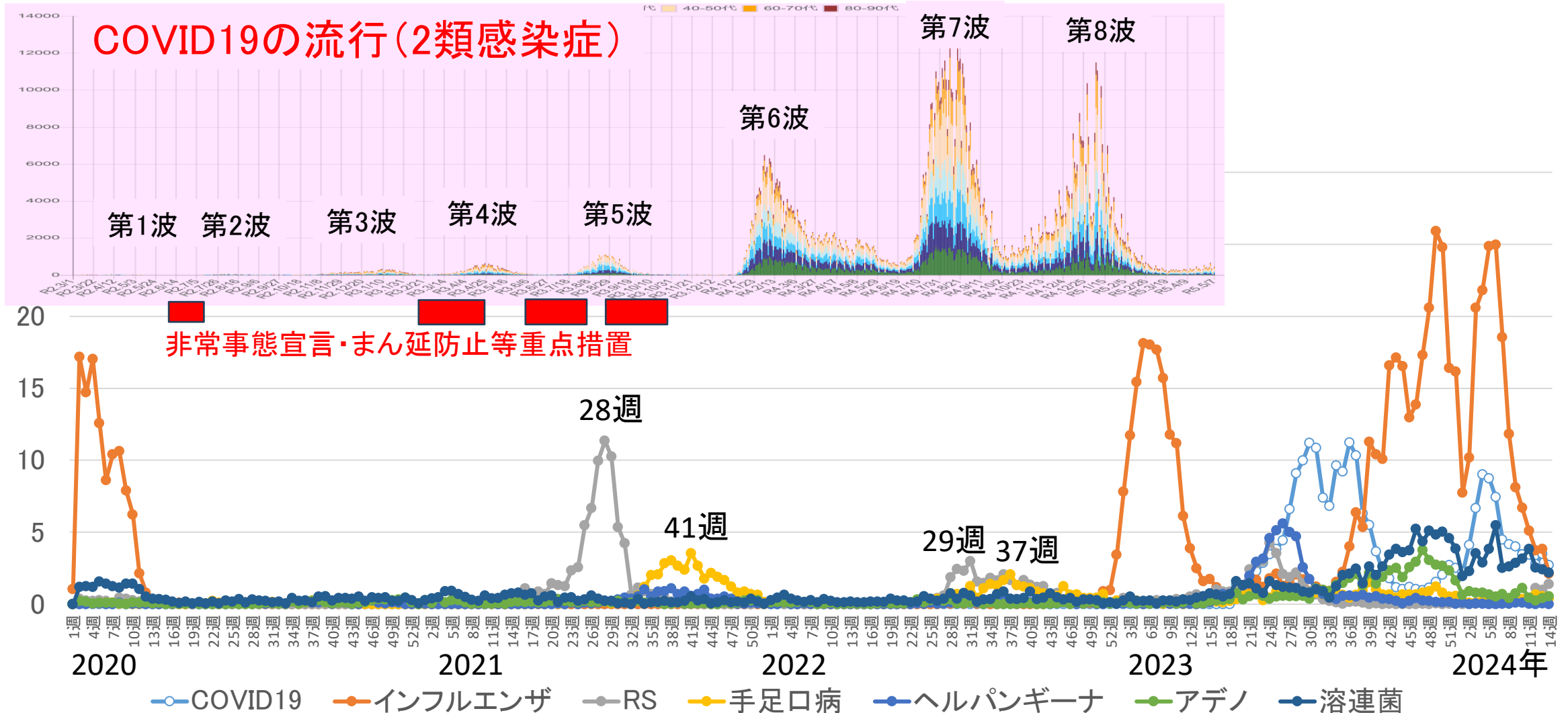
[定点報告疾病（週報告分）の情報を見る](#) [全数報告疾病の情報を見る](#) [病原体発生状況の情報を見る](#)

2011～2024年(14週)の神戸市感染症発生動向



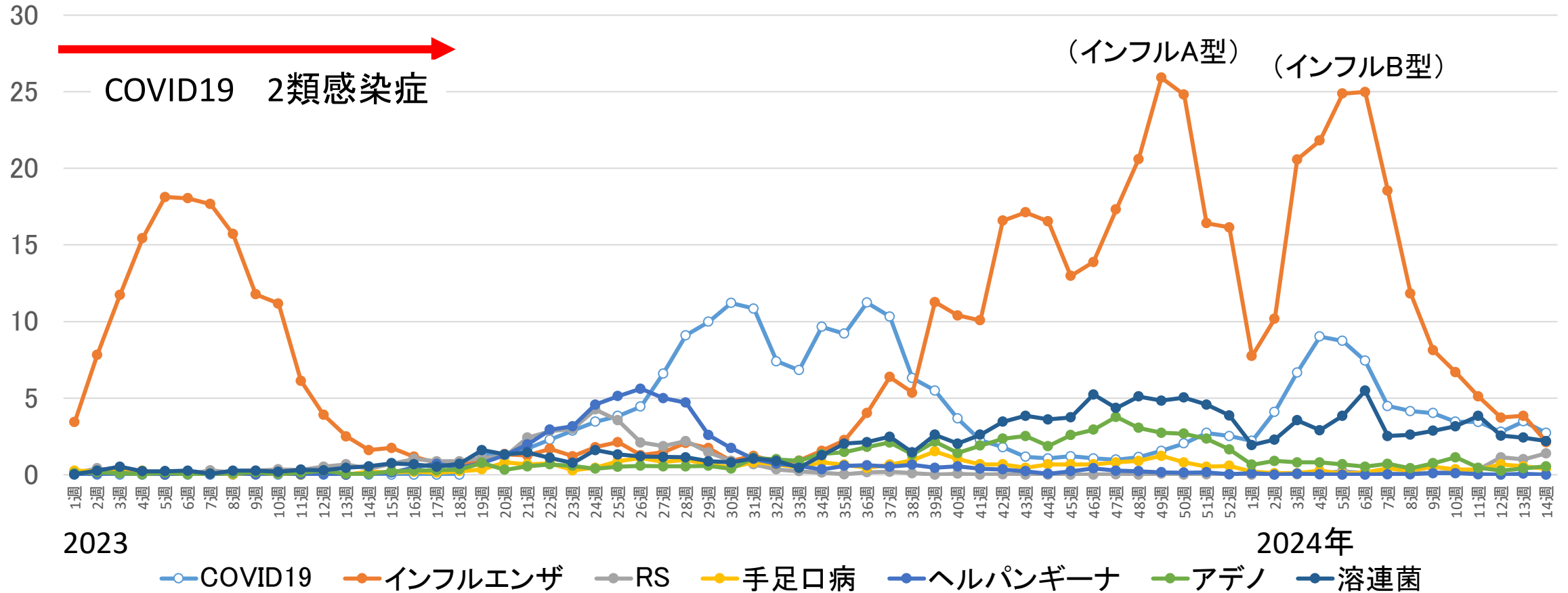
➤ COVID19流行前は、冬にインフルエンザ、夏に手足口病もしくはヘルパンギーナの流行

COVID19流行中の神戸市感染症発生動向



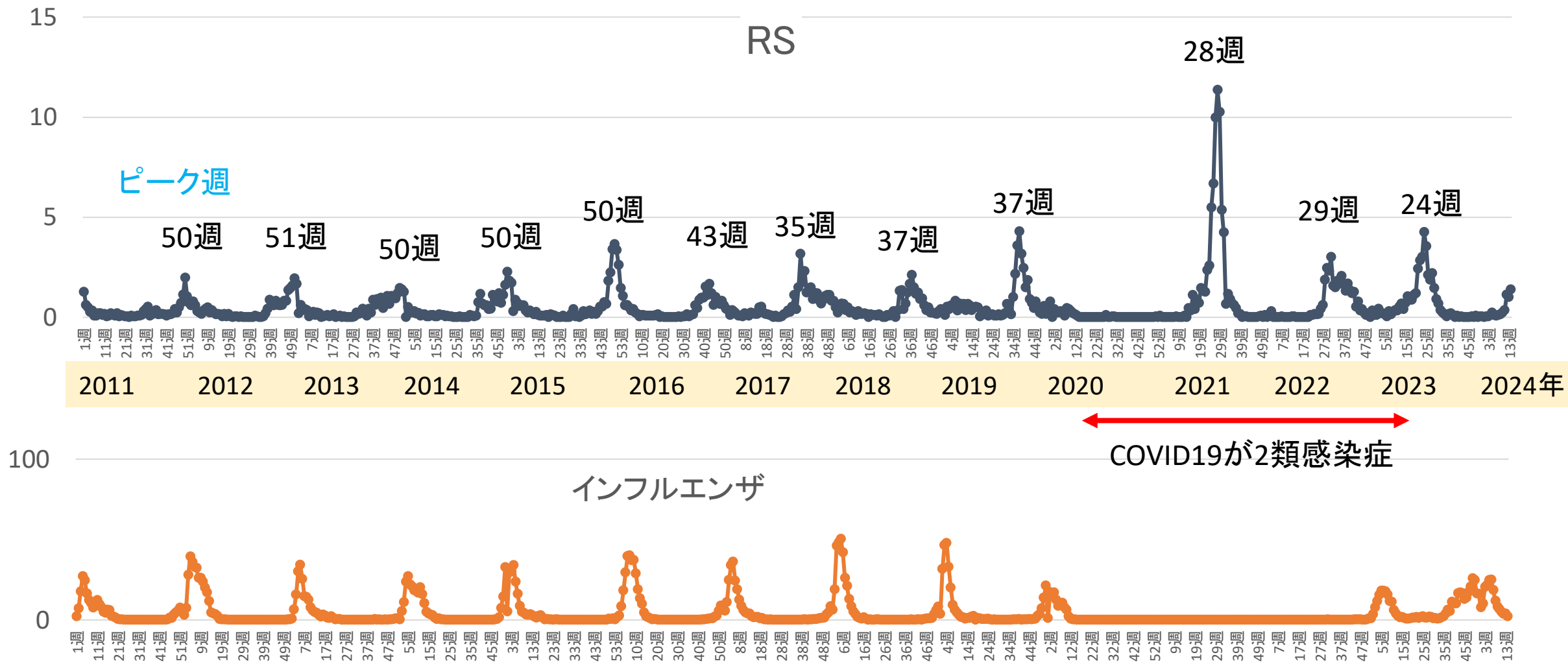
➤ 2021-22年はインフルの流行なく、28-29週にRS流行、41-37週に手足口病小流行

COVID19の5類移行後の神戸市感染症発生動向



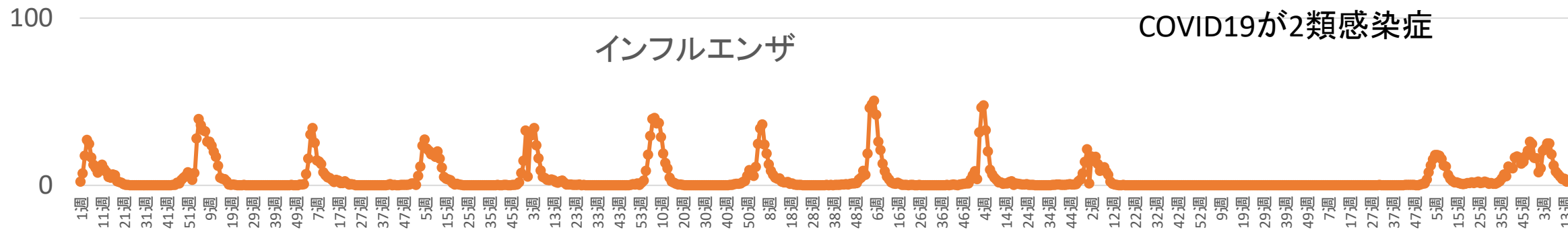
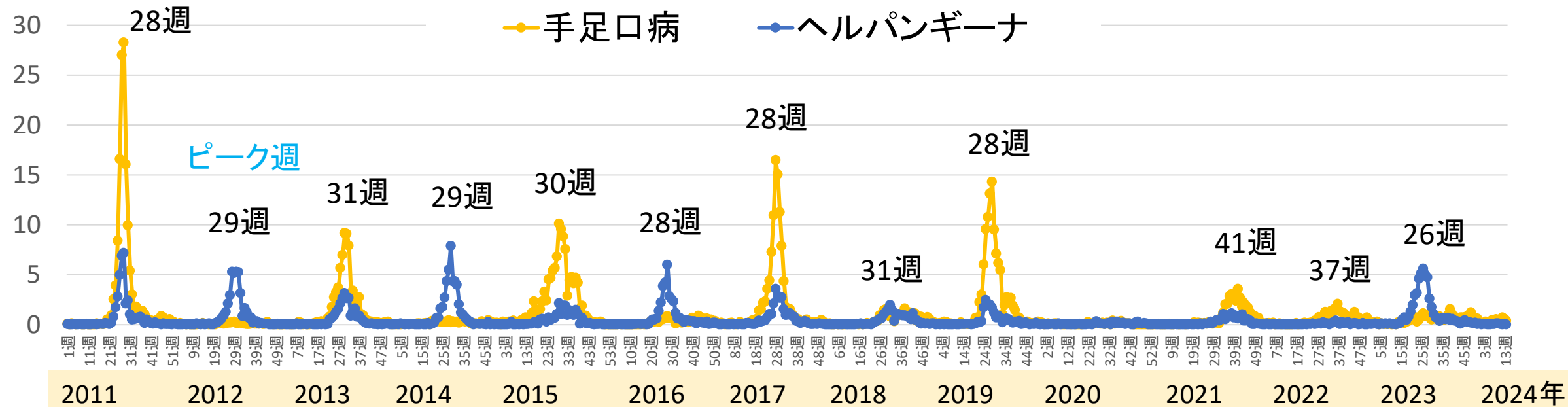
- 5類移行直後はRS、ヘルパンギーナ、COVID19、インフルエンザなどが混在して流行
- インフルエンザが長く流行
- インフルエンザ流行中に、溶連菌、アデノ、COVID19の流行があった

RSウイルス感染症の発生動向



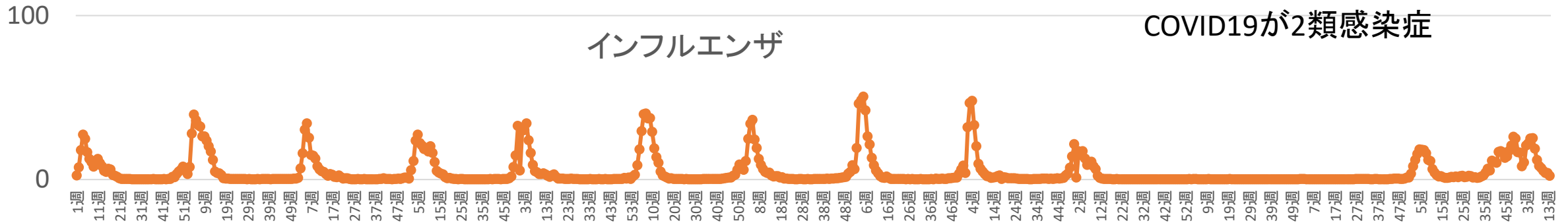
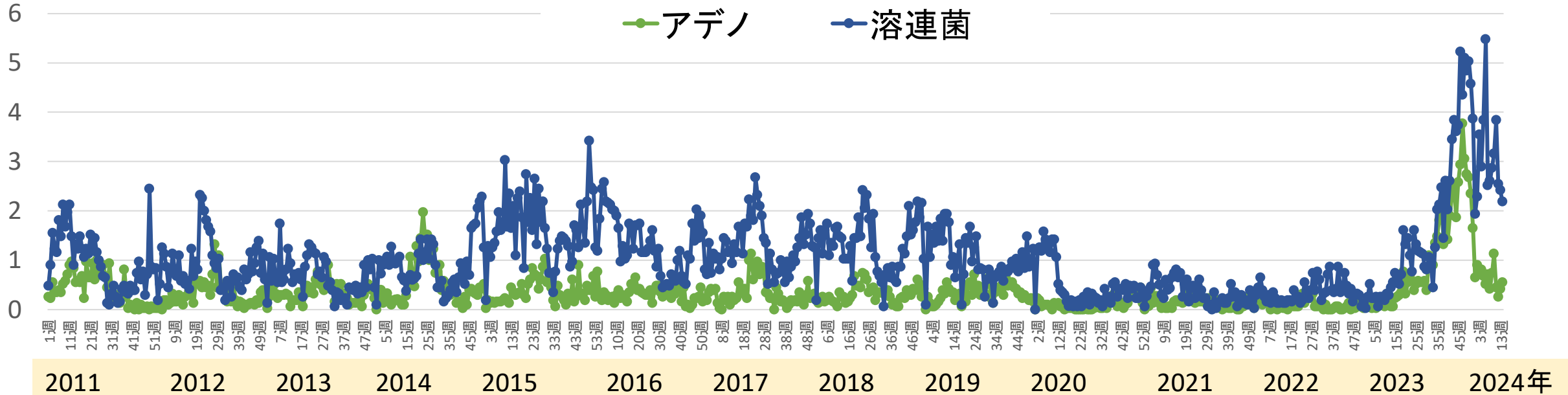
➤ RSは50週→35-43週にピークだったが、COVID19流行後、24-28週にピークがきている

手足口病・ヘルパンギーナの発生動向



➤ 流行前は28-31週にピークだったが、流行後、41, 37週にピーク、5類後26週にピーク

アデノウイルス・溶連菌の発生動向



➤ COVID19の5類移行後、アデノは47週にピーク、溶連菌は現在も多い

まとめ

- COVID19流行中は、感染症が少なかった。
- 5類感染症移行後は様々な感染症が同時に流行した。
- インフルエンザが35-14週と早くから長く流行し、RSの流行が24-29週と早くなるなど、以前の流行との違いを認めた。
- COVID19流行による感染症動向の変化は、行動規制・マスク着用などによる感染予防の効果と、その感染症に対する集団免疫の低さによると考えた。

